

あま がわ み
 天の川はいつが見やすい？

天の川と言え七たなばたを思いうかべる人も多いのではないのでしょうか。ところが、7月7日は天の川が見やすいというわけではありません。では、いつが見やすいのでしょうか？

七夕のお話のとおり、天の川の両側に「おりひめ星（ベガ）」と「ひこ星（アルタイル）」があり、天の川の中にある1等星デネブをつなぐと「夏の大三角」となります（図1）。天の川は夏の大三角の真ん中を通っており、とてもうすい帯のように見えます。たくさんの星の集まりですが、遠くにあるため一つ一つの星に分かれては見えず、全体がぼんやりとして見えます。

とても暗いので、外灯など街明かりがある場所や月が明るいときは、その明かりに負けてしまって見ることができません（右の②）。また建物や木などで空がおおわれている場所では見えません（③）。そして、天の川が頭の上に近いくらい高いところにあるときほど、街明かりの影響が減り、見やすくなります（④）。

この④を満たすのはいつでしょうか？ 7月7日では夜中の11時ごろになってしまい、かなり夜ふかしが必要です。ところが9月中旬ごろでは夜7時ごろに同じような星空を見ることができます（1ヵ月たつと、2時間早い時間に同じ星空が見られます）。9月は、夜ふかししなくても空の高いところに天の川や夏の大三角が見え、また日の入りが夕方6時ころですから、早い時間から星空を楽しむことができる時期です。

つまり、「天の川はいつが見やすい？」の答えは、よくテレビに出てくる有名な先生の言葉を借りると「今でしょ！」なのです。（天文担当 林 忠史）

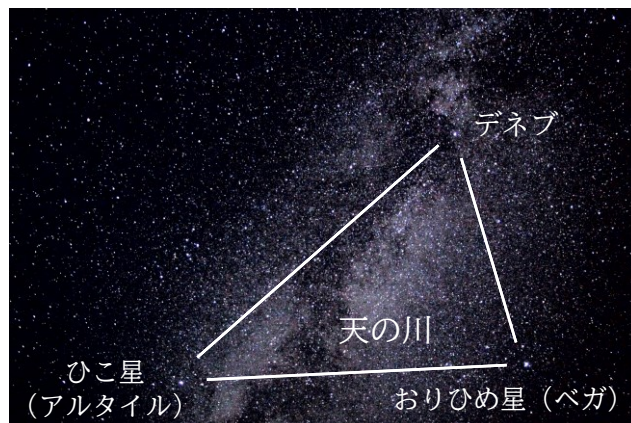


図1 夏の大三角と天の川

天の川が見える条件

- ① 良く晴れていること
- ② 空が暗いこと
街明かりがとても少ない
明るい月が出ていない
日の入りから1時間以上あと
- ③ 空が開けていること
- ④ 天の川が空の高いところにあること

日の入りの時間（富山市）

7月	7日	午後7時13分
8月	15日	午後6時43分
9月	15日	午後6時

（9月は7月より1時間以上早くから星空を見ることができる）

今月のかぐのギモン：天の川は、空の暗いところならいつでも見ることができますか？
（答えは当館ホームページをごらんください。）